

# 2023年夏季闘争ニュース

No.23-10 2023年8月1日

発行:目黒地区労働組合協議会/教宣部

【HP】<http://meguro-rokyo.jp/>

メール:[union@r05.itscom.net](mailto:union@r05.itscom.net)

## 1年分の物価上昇に見合った最賃大幅引き上げを!

23春闘は3%台の賃上げ獲得、しかし物価上昇に負け実質賃金は低下。また契約・パート・派遣など、非正規雇用の仲間には及んでいない。次は最低賃金の引き上げです。7月に入り中央最低賃金審議会が連日開催。従来密室だった「目安小委委員会」も部分公開がなされ、会場前宣伝・傍聴行動に参加しました。

### 目黒労協最賃宣伝 in 中目黒

7月14日の夕方、中目黒駅前で、目黒労協最賃宣伝行動! 13人の参加で、東京春闘共闘の23最賃チラシ入り350組配布。新ボードも配布ビラ拡大版作成しました。



### 中央最低賃金審議会、傍聴行動



6月30日午後、今年の中央最低賃金審議会第1回が開催。審議委員の新任、会長及び会長代行の選任、目安小委員会の設置が行われました。会場の厚生労働省前では、全労連・全労協・国民春闘共闘3者共催のアピール行動開催。傍聴に当選したので会場へ。TVでも映った厚生労働大臣からの諮問の交付に立ち会いました。

### 初の部分公開、目安小委で宣伝・傍聴も

中央最低賃金の実質的な審議の場「目安小委委員会」、密室審議が問題でしたが、今年から、公・労・使3者が会する場はやっと公開となりました。7月12日、20日、26日、28日と相次いで開かれた目安小委委員会、各回の開会前には会場前で、全労連・全労協などがいっしょに、宣伝行動で圧力をかけ、また傍聴にも応募して、目黒労協から落選した26日は除き、各会傍聴行動を行いました。

### Aランク41円、Bランク40円、Cランク39円引き上げ目安。東京は1,113円に

7月28日の審議会・目安小委では、全国的には昨年10月以降の物価上昇値と同じ4.3%引き上げ、加重平均1,002円という目安でまとまりました。しかし東京は3.8%引き上げと、「Aランク地域は4.5%物価上昇」を下回っており、8月1日から始まる東京最賃審議会でも、10年続く「目安通り」改訂を打ち破る必要があります。  
(以上全/目黒労協事務局)

# 地域での共同の取り組み

## 社保協 2023 年度総会

7月8日(土)の上目黒住区センターで、目黒労協も加盟する目黒社会保障推進協議会の2023年度総会が、20名の参加で開催されました。総会では、22年度の経過報告と23年度の方針、会計などが報告され、役員体制を含め満場一致で承認されました。

議論では、4年ぶりに開催された3月の「区民集会」について、「久しぶりにやれて、やっぱり良かった」、「パレードはやれてうれしかった」などの感想が出されました。目黒労協からは、事務局長が「労協組織と区内労組の30年前と今」の状況を報告し、未組織労働者の組織化の必要性を訴えました。また、新年度も引き続き役員2名を派遣します。(目黒労協/社保協担当)



## 毎月宣伝 改憲 No! めぐるの会

7月8日の夕方、「改憲 No! めぐる」が宣伝・署名行動を実施。4名参加で約1時間。ハンドマイクで録音音声を読みながら、手作りティッシュを配布、署名のお願い。私は5人の方から署名をいただきました。残念ながら若者はひとり。お年寄りたちは「お互いもう戦争になっても役はないが、若い人たちにもっと考えてほしい」などと話しながら署名をいただきました。

(目黒労協事務局)



## 原水爆禁止 2023 平和大行進、目黒区内も行進



今年も「原水爆禁止 2023 年平和大行進」のひとつのコースが、目黒区を行進しました。7月27日(木)、世田谷を出発した「23 区西部コース」は、お昼前に中目黒舟入場公園に到着。目黒からの参加者もいらっしゃいました。1時間の休憩の後、駒沢通り・正覚寺交差点から渋谷に向けて出発。目黒からの参加者が加わり、30人を超える隊列となりました。目黒の責任は渋谷まで、「行進」は夕方までに、最終地点の上野公園まで歩き通します。

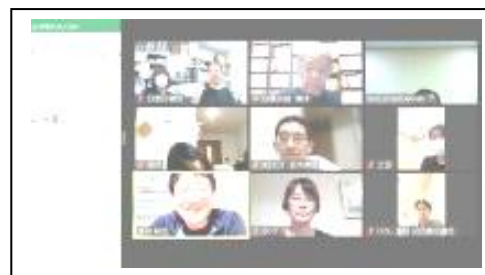
核兵器の廃絶をめざし、来年には一歩でも二歩でも、みなさんご一緒に歩いてみませんか。

(JMITU 目黒地域/通信員)



## わくわく子どもまつり2023 第1回実行委員会

2020年からコロナ禍のもとYouTube企画、2022年は申込制で体育館を中心に何とかワクワクを継続してきました。今年のテーマは「復活」で、2023年11月12日(日)10時～14時半の時間帯を予定。鷹番小学校で第12回わくわく子どもまつり開催に向けて、2023年最初の実行委員会が行われました。(目黒労協/事務局)



# 沖縄に米軍基地を押し付けるな！

## 土建目黒支部・沖縄プロジェクト2023に参加して

沖縄プロジェクト2023、マリンブルーとエメラルドグリーンの豊かな海、沖縄の原風景やんばるの森の原生林と、固有種ヤンバルクイナなどの小動物に出会いました。

このような環境の中で、人間だけがみにくい争いを続けて、破壊が進んでいます。現状のままを4年ぶりに見てきました。破壊が今も続く沖縄東村の米軍・北部訓練場であります。轟音とともに、新旧のヘリパット間を離発着するオスプレイは、地上戦を想定した空挺部隊が、径200mの円形状の赤土むき出しの状態、爆風により森林破壊を起こしています。この一帯は、見るも無残な姿で破壊が進行しています。

一方、名護市・辺野古では、普天間基地の代替え基地として、キャンプシュワブの一角を埋め立て、新たな基地とするために辺野古の海を埋めています。サンゴ礁やウミガメ、ジュゴンの生息地でありもあり、世界自然遺産に匹敵する自然環境にもかかわらずです。米軍が言うがままの護岸工事が進められ、全体の四分の一程度が完了しているものの、深い海底が軟弱地盤として施行不能に陥る可能性があり、県知事の許可も出ていないのに、沖縄防衛当局や政府による時間稼ぎを余儀なくされています。

そういう中で無駄を増やし、ただ1つしかないゲート前で、30名を超える警備員と機動隊員とが居座り、ダンプトラックの出入りに昼夜目を光らせ、基地内への導入を一般国民から遠ざけ、占領軍を守ってやまない。国民の税金を湯水のごとく使い、占領軍に贈り物を与えています。いつまでこのような暴挙を繰り返すのか。

今も私たちは臨時の建て小屋で抗議を続け、ダンプの搬入を阻止し、3,800日以上の時が経とうとしている人々を、ねぎらい激励してきました。我々は彼らに寄り添って、話を聞くことくらいしかできないのであります。道すがら、1人で活動を続けてパンフレットを作成している、同じ考えを持つ青年がいて、多くのフォロワーを集めていると聞きました。

私たちに残された課題は、沖縄の今の状況を知り、多くの世論を巻き起こしていくこと。そして、基地のない沖縄を、2度と同じ過ちを犯さない、戦争を繰り返さない、沖縄を捨て石にするな、米兵は出ていけ！と、周りの人たちに訴えたい！（プロジェクト参加した土建目黒支部/通信員）



# 子どもの利益を第一にする公立保育園を残そう

## 目黒区の保育園民営化について・目黒区職労保育園支部より

目黒区は、平成 17 年に「目黒区立保育園の民営化に関する当面の考え方」を定め、その後も「保育園は民営化を推進する」と方針を決定し、平成 25 年「区立保育園の民営化に関する計画」に改定。区立保育園の民営化を進めています。保育園支部では民営化反対に取り組み、「公立保育園の役割」の共有や「財政問題」についての学習を行ってきました。また、働く職員の労働条件を守るため、新規採用に向けた取り組みや、調理業務委託についての取り組みも行っています。その中で 2022 年度は、産育休代替・病欠代替の欠員問題が深刻化しました。欠員による業務の過密さや、朝夕保育当番（時差勤務）の回数増加等、病欠が病欠を生むような状況に陥る園が複数発生し、他の園から応援補填の異動を行い、困窮した園を支えました。これは前代未聞な事態です。

### 「配置基準」通りの職員体制で働き続けられる職場に！

2021 年に提示された「公立保育園の役割」の中で、緊急一時保育、医療的ケア児の受け入れなど、民間園では難しい部分を担っている事や、区全体の保育の質の向上、指導監督能力を担保していくための人材育成など、なぜ公立がなければならないのかの理由は明らかにされています。この役割を果たすには、配置基準通りの安定した職員体制が必要なのです。まさに福祉の維持・向上のためですが、現状 2023 年も欠員が目立ち、夏以降、産育休に入る人たちの代替はほぼ皆無で、現場からは「もう内部努力は限界！」「人事課は人員を整えるのが仕事。全く艇をなしてない」と怒りの声が上がっています。働き続けられる職場体制の整備を強く訴えていきます。



また保育園給食を伝承していくために、直営調理の必要性を訴えています。しかし現業職不採用が続き、給食調理職員不足が大きな問題となっています。すでに 16 園のうち 4 園が業務委託されていますが、それでも調理士の高齢化や病欠による欠員に歯止めがかからず、2023 年度 10 月、新たに 3 園の給食調理業務委託を導入することとなります。区は未実施である（民営化予定の 1 園を除いた）5 園に対し、調理士の退職見込みを踏まえ、委託に必要な諸条件を整理し、速やかに委託を進めるとしています。公立園の調理士は、公私立合同研修会にて技術の蓄積と経験の豊かさから、講師役を担い実習を行っています。また、災害時の福祉避難所になった際の対応や、区の栄養士の

育成の役割等も担っています。直営調理の役割も明確化し、区に現業新規採用を引き続き訴えていきます。

### 保育士・関係団体・保護者有志と一緒に学習会を開催

民営化の理由にされる財政の問題については、「今の目黒の保育を考えよう～みんなの税金が保育にどう使われるべきか～」という学習会を開催しました。第 1 回は、ハイブリッド方式にて、保育園支部・保育問題協議会・保護者有志との共催で行いました。自治労連が作成したパンフと動画を活用し、公立保育園民営化運動を振り返り、目に見えない保育の質が大切なことと、民営化と切り離せない財政問題を考えていきました。目黒区内の認可保育園でも行われていた、人件費水増しによる不正受給問題についての解説や、保護者有志が行ってきた民営化反対運動の、これまでの経過と現在の状況などについて意見交換を行いました。第 2 回は、全職員を対象に、動画を YouTube 配信し学習会を行いました。

「大切な財源が企業の利益に使われ、保育の質の低下につながっていることが分かった」「監査を怠り、劣悪な保育を見ない国に怒りを覚える」「子どもの利益を第一に運営される公立園をもっとアピールしたい」等の意見が寄せられました。子どもの最善の利益を考え進められ、保育の専門性を高めあうことができるのが公立園である。昨今、子どもの人権についても注目されています。引き続き、職員、保護者、地域と共に、子どもを中心に据えた保育園の在り方、存在意義を明らかにし、運動を進めていきます。（目黒区職労・保育園支部/執行委員）